



和歌山市議会議員戸田正人
市政報告通信第10号
発行者：絆クラブ
編集：戸田正人

後援会会員 各位

師走の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

早いもので平成25年度も、あと数日を残すこととなりました。季節の変わりが秋を飛び越え、夏から一気に冬となった感があり、体調など崩されている方も多くいるとお聞きします。どうぞお体にはご自愛くださいませ。

さて先月、大橋和歌山市長が発表した突然の次期市長選不出馬宣言に驚いたのは、私だけではなかったのではと推察いたします。

確かに、政治家が自身の進退を決断する事に対しては、私も政治家の端くれとして非常に重く受け止め、尊重したく思います。しかし、この時期に不出馬表明することは和歌山市政において混乱を招くとともに、市民福祉サービスはまぎれもなく向上しないのが明白で、私は市議会議員として大橋市長に対し在任期間中の功績には深く敬意を表しながら、市長職を即刻辞任すべきと考えるのです。

以下その理由を述べます。

市長は不出馬表明をするとともに、来年2月議会で提案する予定の平成26年度予算を骨格予算のみで計上すると述べられました。骨格予算とは法的な定義はありませんが、一般的に政策的予算（市民の要望や議員の提案、首長自らの政策などを実現していくための政策予算）を含まない、義務的予算（人件費、生活関連費、福祉費など市民生活するのに最低限必要な予算）を中心とする予算のことです。しかるに、来年8月の任期満了まで在任し公務を遂行したとしても、首長が一番しなければならない民意を反映させ、市民福祉の向上や街づくりの大きな進路を決めるべく平成26年度分（1年間）の予算は組まないと述べられたに等しいと、私は思うのです。

もし仮に、在任期間中との根拠で来年2月定例市議会における本格的予算（首長の意志を反映した政策的予算を含む）や市民に対する街づくりの意志である条例などを上程したとしても、平成26年度4月から始まる向こう一年間において、たった4ヶ月間しか任期の無い首長が提案する予算や条例などの責任の所在は無く、無責任な予算や条例提案になりかねないのです。

市長としての在任期間は法的に来年の8月までありますが、政治家としての任期は不出馬を発表した時点で任期満了に等しいと、私は考えるのです。

今議会での一般質問においても、各議員が質問する和歌山市の方向性において、和歌山市当局は、精一杯自分達が答えられる範囲で答弁していますが、そこには限界があり、最終的に本市の方向性を定めるはずの市長は全く答弁することもできず、議会における議論は不完全燃焼のまま過ぎていくのが現状であります。

まさしく、仁坂和歌山県知事がコメントした「レームダック（死に体）」とはこのことなのです。

待ったなしの和歌山市において、より閉塞感漂う未来志向が見出せない状況を打破すべく、皆様方から信託を受けた和歌山市議会議員として、一層精進してまいります。

和歌山市議会議員
戸田 正人